業界の人材確保・育成の取組

佐賀県空調衛生工業会会長 土井 敏行



を申し上げます。 ざいます。謹んで新春のお慶び 新年あけましておめでとうご

> 明けとなりました。 10月には消費税が10%にな 令和の時代を迎え初めての年

早く地方にとっては業種によっ 今後を見据えると楽観するのは 復傾向」との見方です。しかし て隔たりがあり、人手不足は依 く、今のところ「ゆるやかな回 をお祈り申し上げます。

状況に変わりはありません。 然として続いている中で厳しい

町、江北町で大変な損害を被り 途中の方々がおられ、物心とも ました。被災地では未だに再建 賀豪雨」では特に武雄市、大町 まされています。「令和元年佐 々激甚化しつつある風水害に悩 昨年は台風が多く発生し、年

極集中だけでなく、地方への波 で、かなりの経済効果が見込ま れるものと思われますが東京一 今年はオリンピックイヤー よりお見舞いと一日も早い復旧

ボルとなり地域の活性化に繋が て、夢のある佐賀の新しいシン

にご苦労をされております。心

同に会し、業界が抱える現状と るものと、期待感が膨らみます。 課題の討議を行うための大会が 昨秋、空調衛生設備業者が一

及効果も期待したいところで 佐賀県は、2023年の「国

様々な分野で活用できるとあっ もある大規模施設で、大会後も Aサンライズパーク」の建設は、 スポーツだけでなく文化的空間 ております。中でも、「SAG 建設工事が急ピッチで進められ 民スポーツ佐賀大会」に向けて

沖縄県で開催されました。建設 くことが重要で、少子高齢化や でやりがいのある産業にしてい 職しているデータが出ている中 べての人にとって安全で魅力的 ていくためには、そこで働くす で、建設業の持続可能性を高め 業に就職した新卒者が3年で離 衛生工事業業界の立場が反映さ 上げ、また発注等について空調 すが、人材の確保・育成は早急 革の必要性など課題は多いので 就労環境の整備や労使の意識が 位向上のための労務費単価引き き方改革」の推進や、業界の地 に行わなければなりません。「働

いう名のもとに少しずつ女性の 取組んでいくことを共有化して が我々業界では「設備女子」と いるところです。特に、建設現 姿が見受けられます。しかし佐 場で働く女性は稀でありました 人手不足、技能継承等の問題に ともに、皆様のますますのご健 ご指導をお願い申し上げますと 新年のご挨拶といたします。 勝とご多幸をご祈念申し上げ、 いく所存です。 がら要請活動も積極的に進めて れるよう関係団体とも協調しな 最後に、今後も関係者各位の

門の職種に携わり活躍しており 報工学、応用理学、生物工学、 業、森林、水産、経営工学、情 内でも多くの技術士が各技術部 術監理、の21部門です。佐賀県 環境、原子力·放射線、総合技 建設、上下水道、衛生工学、農 化学、繊維、金属、資源工学、 して、春と秋の年に2回の技術 佐賀県支部では、主な事業と 象現象を活かした地域活性化」 ざした建築・地域づくり」「気 会は、「地方における場所に根 ジ化対策について」「歴史の陰 たしました。そして、秋の懇話 のまちおこし」と題して開催い 域の活性化』とし、 象が自然現象に与える影響と気 に埋もれた伊万里『楠久・津』 は「地域活性化と都市のスポン

意見交換をして、未来に暮らす 年も、『地域の活性化』をテー と題して開催いたしました。本 マに技術懇話会を開催し皆様と きたいと考えています。 いけるように尽力させていただ 人々により良き社会を継承して

技術士(Professional Engineer)とは 日本技術士会佐賀県支部長 盛永 保弘

20日に制定されました。技術が社

技術士法は、1957年5月

倫理綱領の遵守のもと業務の適

ことを十分に認識して、技術士 会や環境に重大な影響を与える



ざいます。 新年あけましておめでとうご

サルティングエンジニア制度を 第二次世界大戦後、「荒廃した もって活動できる権威ある技術 日本の復興に尽力し、世界平和 者」が必要となり、米国のコン 士会は設立8年目を迎えます。 に貢献するため、社会的責任を 本年、公益社団法人日本技術 正を図り、もって科学技術の向

参考に「技術士制度」が創設さ 上と国民経済の発展に資するこ

す。技術部門は、機械、船舶・ メンバーとして参画していま 登録をする制度に参加してお 資格は、APEC地域の15エコ 格制度についても、その正式な り、IPEA国際エンジニア資 ノミーがAPECエンジニアの とを目的としています。技術士 ます。

2020年 元旦





和元年度からは、テーマを『地 年間継続してまいりました。令 えております。昨年度までのテ

ーマは、『減災・防災』とし5

懇話会を催し、地域に根ざした

内容を発信してまいりたいと考